

////////////////////////////////////NPO法人 高蔵寺ニュータウン再生市民会議発行 (☎080-4540-3553)

## 8月の「どんぐりsカフェ」から 「わが家の耐震診断」大丈夫だった？

8月20日の「どんぐりsカフェ」は、《あなたの家は地震で大丈夫？》とのテーマで開催＝写真。熊本地震情報と春日井市の耐震改修補助制度の説明に次いで日本建築防災協会発行のリーフレット「誰でもできるわが家の耐震診断」を使って、木造住宅の耐震診断を行った。

この耐震診断は、自宅の耐震性能の理解や耐震知識の習得を進め、耐震改修に向けて、より専門的な診断を行う際の参考にすることを目的に作られた。10問の問診に答えて評点を計算すると、3段階の判定と対策に導かれる。10点



ならひとまず安心。9点以下は何らかの対策が望まれる。参加者の評点は5から9であった。質疑応答の後、春日井市地震防災マップ、同洪水ハザードマップ、活断層データベースなどの紹介があった。ニュータウンの地盤については、各宅地の盛り土など造成状況に関する情報の公開を望む声が多く出された。(山上 薫)

### どんぐりsから

- 春日井市は第六次総合計画（平成30年～）策定に向けて動き出した。その検討過程は企画政策課発行の「春日井みらい通信」（春日井市のホームページから検索可）で知ることができる。
- その通信Vol.1には、市民ワークショップ「TALK&CAFÉ」、出張授業「春日井みらい教室」、グループインタビュー「春日井みらい座談会」などを通じて、住民と一緒に春日井の未来を考えていこうという行政の姿勢がみられる。特に「座談会」は、市内で活動する5人以上のグループから希望があれば、「職員がお伺いします」とあり、これまでには無かった姿勢であり、高く評価したい。現在、どんぐりsもこの「座談会」への申し入れをすべく準備中である。
- どんぐりsでは、このところ創生課を通じての住宅流通促進協議会との連携や生活支援担当との連携が進みつつある。そうした時期だけに私たち自身の力量が問われる。学習や情報収集に努め、足腰を強める努力を怠らないようにしたいと考えている。(藤城 栄一)

### 9月の「どんぐりsカフェ」

テーマ：熊本地震現地報告（地震に強いすまいづくり）  
開 師：津島勝弥氏（一級建築士、欠陥住宅を作らない設計者の会会員）  
片山繁行（一級建築士、当会役員）  
日 時：9月17日（土）、13.30-16.00  
会 場：東部ほっとステーション  
（サンマルシェ南館1階）  
参加費：500円。

### 高齢者・すまい&困りごと生活相談

● まずはお電話ください：  
080-4540-3553（どんぐりS事務局）  
面接相談会日時：  
9月11日（日）14:00～16:00  
9月18日（日）10:30～12:00  
会 場：東部ほっとステーション

# 「どんぐりs」のすまい相談市・URと初の連携

9月4日、春日井市やURで構成する高蔵寺ニュータウン住宅流通促進協議会主催の相談会が開かれた＝写真。今回の相談会は「どんぐりs」も協力。このような連携は初めてで、その成果が注目された。サンマルシェ連絡通路に机2台、資



料、幟旗を立て、相談コーナーを設置。市創生課は水野課長以下4名。「どんぐりs」も藤城、坂本、村上、寺島の一級建築士を含む4会員。センター開発の岡本社長も見えた。実質6時間の内、相談件数は5件。中日新聞の取材もあった。

28年を経たサンルームの劣化、古いアルミサッシュの取り替え、パネル構造住宅の耐震診断、間知ブロック擁壁の亀裂、タタミをフローリングに替えたい、などの相談が持ち込まれた。どの相談内容も切実なものが多く、相談員も真剣に相談に応じた。次回は10月16日（日）に開かれる。  
(寺島 靖夫)



「人気のモネの池」(岐阜県関市) 森 健

私の朝・昼・晩

## 天の川

世界の人口の3分の1の人は肉眼で天の川が見られなくなった。との欧米の研究チームの分析が発表された。街の照明などで夜空が明るくなる「光害」の影響で米国民の約8割、欧州で約6割、日本でも約7割、最も光害のひどいシンガポールでは全土で天の川が見られない。アフリカ諸国では、人口の約6～8割が自然のままの夜空の下で暮らしており、一部の大都市を除き、多くの地域で天の川が見られる状態だ。

一方写真の世界では、フィルムカメラの時代には天の川どころか星を点として写すことも難しかった。極めて光の弱い星を写すには分単位の長時間露光が必要で、その間、星は動くので(地球が自転)光の線としてしか写らなかった。日進月歩進化するデジタルカメラの技術は、今や人間の目には見えないものまで写し取ることが可能になり。星も秒単位の露光で撮影できる。

星空写真に挑戦しようと思うが、光害のない山奥へ行かなければ…。(森 健)

## 高森台の地域包括ケア計画で説明会

8月22日夜、東部市民センターホールで、高森台県有地に地域包括ケア団地モデルとして診療所を併設したサービス付高齢者住宅及び商業施設を整備する旨の住民説明会(愛知県健康福祉部主催)があった。高森台東部地域は、買物難民の増加が心配されており、関心も高かったせいか予想以上の参加者があった。

主催者の地域包括ケア団地モデル及び施設整備計画の説明があった後、質疑応答があった。参加者からは、歓迎の声もある一方、信頼できる業者の選定、施設内容、運営、更には周辺環境整備などについて、行政側の指導性を強く求める声があった。当初、県は今回の説明だけで住民の了解を得る姿勢だったようだが、住民からの要請があり、事業者による施設内容説明会の開催を約束した。単なる行政主導の「箱物づくり」に終わらせないためにも、引き続き住民監視が欠かせないと痛感した。(藤城 栄一)